

群馬県立藤岡特別支援学校 学校評価一覧表③（令和4年度版）

（様式3）

羅 針 盤			学校関係者評価		達成度		
評価対象	評価項目	具体的数値項目	改善状況に対する学校が設定した次年度の課題	学校評議員や学校関係者の意見等	①	②	総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の95%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの活動については新型コロナウイルス感染症への対応が変わることをふまえて計画していく。</li> <li>Webページだけでなく他のメディア等の活用を研究していく。</li> <li>PTAの集まり等だけでなく周知や連携の機会を模索していく。</li> <li>学部会や学年会のすきま時間の活用や実施形態を研究していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も感染症などに留意しながら、新しい学校の行事等の在り方を研究していってもらいたい。</li> <li>多様なメディアでの活用が必要である。</li> <li>いじめの認知だけでなく、学校の学習活動とその意義などについても十分に周知していく必要がある。</li> <li>空き時間の確保やすきま時間の活用は、どんな職業においても課題であるが、実行は難しいが、努力してもらいたい。</li> </ul>	A	A	A
		学部・学級便りやWebページ等から「子どもの学習の様子がよく分かる」と保護者の95%以上が答えている。			B	B	B
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。			B	B	B
		児童生徒全員について、ケース会議又はサービス等利用計画作成のための会議を実施し支援につなげる。			B	B	B
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	就学前のケースの相談について、昨年比で30%増加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きPRすることを含め関係機関との具体的連携を行っていく。</li> <li>校内と校外のニーズをうまくふまえた研修を計画し公開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学前に限らず、専門アドバイザーを中心としたセンター機能の発揮は十分である。</li> <li>外部への研修等の発信については十分にできているので、今後も続けていってもらいたい。</li> </ul>	A	A	A
		外部機関等向けの研修を年に5回以上行っている。			B	A	A
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	100%の保護者の参画のもと、個別の指導計画を立案している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の状況は基本的に良くなっているので、保護者の参画の方法やPRの仕方などを工夫していく。</li> <li>先生方のできていることと課題を明確にして更に研鑽に努めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案・活用や参加については十分であるが、更に満足度が上がるように努力していく。</li> <li>教師の授業力が上がったことは素晴らしいので、更に今後は対応が難しい児童生徒の指導などについても研究していく。</li> </ul>	B	A	A
		95%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。			A	A	A
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	校内研修のテーマに沿った授業検討と研修内容の共有を月1回以上行っている。			B	B	B
		学期に2ケース計4回以上を目途にケース会議を行っている。			B	B	B
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策や学校安全について、学校の情報提供や対応に95%以上の保護者が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末から年度はじめの対応等について明確に説明できるようしていく。</li> <li>職員にiPadを配布できたので、更にコンテンツの充実等をしていく。</li> <li>年4回の避難訓練はPDCAサイクルで常に改善しながら継続していく。</li> <li>マニュアルの見直しと共に職員への周知徹底の機会を設けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症等への対応については、新型コロナウイルス感染症が流行りだしたときから基本的に変えていないので継続する。</li> <li>感染症におけるICT活用はリモートが中心であったので、今後は個々の児童生徒の表出などを視点としていきたい。</li> <li>安全な学校づくりのため、今後も積極的に避難訓練（火災、洪水、地震、不審者への対応）は行っていく。</li> <li>電子データなどの活用や理解のため、教師がいつでも簡単にアクセスできるように工夫していく。</li> </ul>	A	A	A
		コロナ禍における学習活動の可否等について、100%の教師が理解した上で活動している。			B	A	A
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	今年度の緊急時対応マニュアルを作成及び配布し、職員に対して年1回以上の研修会を実施している。			B	A	A
		95%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答え、訓練等で活用している。			B	B	B
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、内容を100%の教員が説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中高と取り入れられるよう積極的にアイデアを出す等、工夫していく。</li> <li>学校教育目標や学部の教育目標に日々の指導が着実につながっていることなどがキャリア教育であることを伝えていく。</li> <li>高等部卒業を見通しづらい年齢の場合は、3年後や小中学部卒業を見据えるなどの工夫をしながら共通理解していく。</li> <li>改めて個別の指導計画と個別の教育支援計画のつながりについて、書式の工夫などもふまえて研究していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア形成に特化した授業についても、高等部を中心に外部講師の活用なども含め研究していきたい。</li> <li>日々の指導がキャリア教育であることを理解し、小学部から段階的に高等部に指導内容を継続できるようにしていく。</li> <li>近い将来と3年後程度の将来を保護者と共に見据えて教育活動を計画していく。</li> <li>県が実施している書式やシステムの効果的活用を研究しながら、計画を日々の指導に生かしていく。</li> </ul>	B	B	B
		キャリア教育全体計画の内容を直接的に取り扱う授業を、各学級やHR等で学期に1度は実施している。			B	B	B
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	社会への移行について早期から本人及び保護者と協議し、意義や内容に95%の保護者が満足している。			A	A	A
		全児童生徒について個に応じた具体的な移行時の姿をもとに指導内容を導き、個別の計画に表している。			B	B	B